人工呼吸センター開設の意義

井上病院　人工呼吸センター

福田正人、岡村篤、石谷利光, 山村剛康

人工呼吸センター開設の意義

救急・集中分野では必須の治療法である人工呼吸療法は、一般病床においては相応の設備投資、多種のマンパワーと看護業務量の増加、致命的な事故発生の可能性、社会的有益性を確信できにくい（無駄な医療という思い込み）などの問題があり、病棟の片隅に追いやられていた。

【目的】当院の人工呼吸センターは平成 15 年 9 月 1 日に開設され、平成 16 年 7 月現在では 30 名の患者に対し人工呼吸を行っている。今回、人工呼吸センター開設の意義について検討した。

【方法】当センターの運営方針は、1. 急性期病床と慢性期病床の間を担当する、2. 人工呼吸および人工呼吸関連疾患の治療に特化した診療体制を創る、3. ハイエンド人工呼吸器と生体情報モニタを完備する、4. IT 化によって効率化とリスクマネージメントを達成する、5. 基幹病院と連携した地域医療支援型ネットワークを構築する、とした。

【成績】診療部門は、1. LTAC long term acute care（RCU 30 床、HCU 10 床）、2. 在宅関連部門（在宅人工呼吸、在宅酸素、レスパイトサービス）、3. 呼吸器外来・睡眠ラボ（睡眠時無呼吸症候群）、である。ほとんどの入院患者は基幹病院からの紹介である。麻酔、集中治療を経験した 4 名の医師と呼吸器内科と消化器内科の専門医が診療に当たり、夜間は人工呼吸療法に精通した医師が待機した。看護体制は2対1を超えており、夜間は患者 8 名に対し看護師 1 名である。これまでに受け入れた症例は、肺炎や誤嚥による急性呼吸不全、慢性呼吸不全の急性増悪、蘇生後脳症、外傷および手術後の遷延した人工呼吸管理、在宅人工呼吸患者などであった。治療終了後は一般病院、特殊疾患療養病棟、長期療養施設へ転入院され少数の在宅復帰もあった。

【結論】人工呼吸センターは、集中治療後の継続診療を担い、患者と家族にとって不可欠であることが示された。今後は危機管理をさらに充実し、感染対策を徹底するとともに患者、家族の満足度を高め、専門性を追求したい。

人工呼吸センター開設の意義

井上病院　人工呼吸センター
福田正人、岡村篤、石谷利光，山村剛康

救急医療の救命率向上に伴い人工呼吸を継続すべき症例が増加した。しかし人工呼吸療法には相応の設備とマンパワー、看護業務量の増加、致命的事故の可能性、無駄な医療という先入観、などの問題があり、受け入れ施設は限られていた。
【目的】我々は平成 15 年 9 月既存の病院内に人工センターを開設した。現在までの実績からセンターの意義について検討した。
【方法】当センターの運営方針は、1．人工呼吸関連疾患の治療に特化した診療体制を創る、2．人工呼吸器と生体情報モニタを完備する、3．IT 化によって効率化とリスクマネージメントを達成する、4．基幹病院と連携した地域医療支援型ネットワークを構築し、急性期病床と慢性期病床の狭間を担当する、とした。診療部門は、LTAC long term acute care のための RCU 40 床および HCU 17 床、在宅酸素、睡眠時無呼吸症候群を含む呼吸器外来、である。麻酔、集中治療を経験した 4 名の医師と呼吸器内科と消化器内科の専門医が診療に従事した。
【成績】入院症例は、急性呼吸不全、慢性呼吸不全の急性増悪、蘇生後脳症、在宅人工呼吸のレスパイトケアなどであった。転院先は一般病床、特殊疾患療養病棟、長期療養施設であり、少数の在宅退院もあった。平成 17 年 1 月には 39 名の患者に人工呼吸を行っており、看護体制は対患者数2対1を大幅に超過している。
【結論】集中治療後の長期人工呼吸、在宅人工呼吸のレスパイトケアを行う人工呼吸センターの重要性が明らかになった。

The role of the respiratory center for long term acute care

Post-ICU
Prolonged mechanical ventilation
long term acute care